

令和7年度 玉津中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようになる。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るために、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 玉津中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3年	学校	88	58	56	4.8	6.8
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	553
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	95	72.9	60.0	64.3	58.2	65.5	4.0	3.6	7.7	4.8	3.4
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	117	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大阪市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大阪府	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1年	学校	106	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大阪市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大阪府	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】		聞くこと 【リスニング】		書くこと 【ライティング】		話すこと 【スピーキング】	
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	84	128.9	—	125.4	—	170.1	—	111.5	—
10月17日	大阪市	—	117.4	—	110.2	—	146.4	—	98.4	—

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトルラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
			103	27.25	27.03	44.43	54.65	85.77	8.23	192.82	17.93
2年 男 子	学校	27.25	27.03	44.43	54.65	85.77	—	8.23	192.82	17.93	41.90
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14	—	8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	—	8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女 子	学校	21.67	26.38	48.12	51.07	58.05	—	8.53	166.71	13.53	52.37
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12	—	9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	—	8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 玉津中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○大阪市英語力調査について(3年生)

【成果と課題】

読むこと(リーディング)については、128.9(大阪市は117.4)となり、大阪市平均を11.5ポイント上回った。

聞くこと(リスニング)については、125.4(大阪市は110.2)となり、大阪市平均を15.2ポイント上回った。

書くこと(ライティング)については、170.1(大阪市は146.4)となり、大阪市平均を23.7ポイント上回った。

話すこと(スピーキング)については、111.5(大阪市は98.4)となり、大阪市平均を13.1ポイント上回った。

結果、すべての項目で大阪市平均を上回ることができた。

今回の結果を踏え、今後も生徒全体の英語力向上につなげていきたい。

【今後に向けて】

読むこと(リーディング)においては、簡単な文章の大まかな流れを理解する力はついてきている。次は具体的に情報のつながりを読み取る力をつけさせたい。

聞くこと(リスニング)においては、なじみのある表現において必要な情報を聞き取る力はついてきている。次は英文を聞いて「意味のまとめ」ごとに区切りをつけ、状況をイメージして全体の意味をとらえる力をつけさせたい。

書くこと(ライティング)においては、基本的な英文をつなげて短い文章を書く力はついてきている。次はある程度長い文章を書く力をつけさせたい。

話すこと(スピーキング)においては、基本的な言い回しを使いながら、日常のやりとりにおいて単純に応答する力はついている。次はより聞き手を意識しながら話す内容を増やし、複数の文で自分の考えを伝える力をつけさせたい。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査について(2年生)

【成果と課題】

〈男子〉

握力においては、27.25(大阪市28.65全国28.95)となり、大阪市を1.4、全国を1.7kg下回った。

上体起こしにおいては、27.03(大阪市26.89全国26.09)となり、大阪市を0.14、全国を0.94回上回った。

長座体前屈においては、44.43(大阪市43.47全国45.12)となり、大阪市を0.96、上回り、全国を0.69cm下回った。

反復横跳びにおいては、54.65(大阪市51.80全国51.64)となり、大阪市を2.85、全国を3.01回上回った。

20mシャトルランにおいては、85.77(大阪市80.14、全国78.82)となり、大阪市を5.63、全国を6.95回上回った。

50m走においては、8.23(大阪市8.06、全国8.00)となり、大阪市を0.17、全国を0.23秒下回った。

立ち幅跳びにおいては、192.82(大阪市195.02、全国197.51)となり、大阪市を2.2、全国を4.69cm下回った。

ハンドボール投げにおいては、17.93(大阪市20.28、全国20.74)となり、大阪市を2.35、全国を2.81m下回った。

体力合計点においては、41.90(大阪市41.69、全国42.20)となり、大阪市を0.21上回り、全国を0.3点と、わずかながら下回った。

〈女子〉

握力においては、21.67(大阪市23.12全国23.15)となり、大阪市を1.45、全国を1.48kg下回った。

上体起こしにおいては、26.38(大阪市22.70全国21.70)となり、大阪市を3.68、全国を4.68回上回った。

長座体前屈においては、48.12(大阪市46.32全国46.99)となり、大阪市を1.8cm、全国を1.13cm上回った。

反復横跳びにおいては、51.07(大阪市46.59全国45.74)となり、大阪市を4.48、全国を5.33回上回った。

20mシャトルランにおいては、58.05(大阪市53.12、全国50.60)となり、大阪市を4.93、全国を7.45回上回った。

50m走においては、8.53(大阪市9.03、全国8.97)となり、大阪市を0.5、全国を0.44秒上回った。

立ち幅跳びにおいては、166.71(大阪市166.76、全国166.44)となり、大阪市を0.05下回り、全国を0.27cm上回った。

ハンドボール投げにおいては、13.53(大阪市12.20、全国12.43)となり、大阪市を1.33、全国を1.10m上回った。

体力合計点においては、52.37(大阪市48.14、全国47.58)となり、大阪市を4.23、全国を4.79点上回った。

【今後に向けて】

男子については、大阪市・全国平均を共に上回った種目は上体起こし、反復横跳び、20mシャトルランとなった。その他の種目と体力合計点はわずかながら下回った。

女子については、大阪市、全国平均を共に上回った種目は上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、ハンドボール投げとなった。体力合計点においても大阪市・全国平均を上回ることができた。生徒質問紙において、「運動が好きであるか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は男女ともに大阪市、全国の割合をわずかに下回った。しかし運動の大切さを理解している生徒の割合は高く、運動に関する意識も低くはないことがうかがえる。今後は保健体育の授業を軸とし、体を動かすことを様々な活動に取り入れ、今回課題が見られた部分の改善にも取り組んでいく。